

アダムとエバ

- **霊操の第一週**
 - 1. 第一の罪：天使達の罪
 - 2. 第二の罪：アダムとエバの罪
 - 3. 第三の罪：ただ一つの大罪を犯したために地獄に落ちた人
今日は第二の罪について黙想する。
- **準備の祈り(46)**
 - 自分のあらゆる意向と行動と働きが、ひたすら主なる神への奉仕と賛美だけに向けられるよう、主の助けを願う。
- **第一の準備**
 - 見えるように場所を設定する事。(47)
- **第二の準備 (48)**
 - 切に望んでいるものを主なる神に願う事：
ここでは...自ら恥ずかしさの余り乱れ悩む心を願う。
- **要点第二 アダムとエバの罪 (51)**
 - **創世記 (3, 1-24)**

1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」² 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。³ でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」⁴ 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。⁵ それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」⁶ 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。⁷ 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。⁸ その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、⁹ 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」¹⁰ 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」¹¹ 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」¹² アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」¹³ 主なる神は女に向かって言われた。「何とということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」¹⁴ 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前はあらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。¹⁵ お前と女、お前の子孫と女の子孫の間にわたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き／お前は彼のかかとを砕く。」¹⁶ 神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め彼はお前を支配する。」¹⁷ 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食物を得ようと苦しむ。¹⁸ お前に対して土は茨とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。¹⁹ お前は顔に汗を流してパンを得る土に返るとき

アダムとエバ

まで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に戻る。」²⁰ アダムは女をエバ（命）と名付けた。彼女がすべて命あるものの母となったからである。²¹ 主なる神は、アダムと女に皮の衣を作って着せられた。²² 主なる神は言われた。「人は我々の一人のように、善悪を知る者となった。今は、手を伸ばして命の木からも取って食べ、永遠に生きる者となるおそれがある。」²³ 主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた。²⁴ こうしてアダムを追放し、命の木に至る道を守るために、エデンの園の東にケルビムと、きらめく剣の炎を置かれた。

- **見る/聞く... : 誰が何を言うか、何をするか...**
 - 神のように善悪を知るものとなること...
 - 二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り...
 - アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れる...

- **神との関わりが変わった:**

ローマの信徒への手紙 (7, 14-20)

¹⁴ わたしたちは、律法が靈的なものであると知っています。しかし、わたしは肉の人であり、罪に売り渡されています。¹⁵ わたしは、自分のしていることが分かりません。自分が望むことは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。¹⁶ もし、望まないことを行っているとすれば、律法を善いものとして認めているわけになります。¹⁷ そして、そういうことを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。¹⁸ わたしは、自分の内には、つまりわたしの肉には、善が住んでいないことを知っています。善をなそうという意志はありますが、それを実行できないからです。¹⁹ わたしは自分の望む善は行わず、望まない悪を行っている。²⁰ もし、わたしが望まないことをしているとすれば、それを行っているのは、もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪なのです。

- **対話 (53)**

十字架につけられた我が主キリストを目の前に想像し、創造主である主は人となり、永遠の命でありながらこの世で死を味わい、こうして、私の罪のために死なれる事について対話する。又同様に 自らに目を向け、キリストのためにしてきた事、キリストのためにしている事、キリストのために なすべき事を話す。そして、このような姿で、このように十字架につけられている主キリストを見て、心に浮かんでくる事を次々と言い表す。